



Quick Thoughts:

グローバル投資環境見通し—レジリエンス

2026年7月



スティーブン・ドーバー, CFA
チーフ・マーケット・ストラテジスト
フランクリン・テンプルトン・イン
スティテュート代表



ローレンス・ハザウェイ
グローバル・インベストメント・ス
トラテジスト
フランクリン・テンプルトン・イン
スティテュート



昨年11月に公開した「グローバル投資環境見通し：2026年とその先」では、「投資機会の拡大」「イールドカーブのステイプ化」「米ドルの弱含み」という3つの循環的テーマと、投資家のポートフォリオ形成に影響を及ぼす3つの中長期的な潮流を決定づけるテーマである「インテリジェンスの時代」「プライベート市場の主流化」「大きな政府の時代」を軸に分析しました。

2026年も折り返しを迎えた現在、当社はこの枠組みが引き続き投資環境を整理するうえで有効であると考えていますが、リスクのバランスには変化が見られます。

「投資機会の拡大」は、底堅い経済成長、堅調な企業業績、地域や資産クラスを横断した投資機会の広がり背景に、しっかりと維持されています。一方で、「イールドカーブのステイプ化」は、高インフレと金融引き締めを反映した「より高い金利水準がより長く続く（Higher for Longer）」局面へと移行しました。ただし、利回りの上昇は、米国ハイイールド債や一部の新興国市場を含む、デュレーションの短い資産におけるインカム機会の改善ももたらしています。一方、米ドルは底堅く推移しており、当社は、2026年の残りの期間において、米ドル安が進むというよりも、一定の範囲内での推移が続くと予想しています。

最も重要なのは、世界経済が想定されたような大きな混乱に陥らなかったことです。戦争、関税、インフレ、金融引き締め、地政学的分断にもかかわらず、世界経済と金融市場は、多くの市場関係者の予想を上回る底堅さを示しました。今回の見通しは、「レジリエンス（強靱性）」という1つのキーワードに集約されます。レジリエンスは経済と市場に明確に表れており、投資家は2026年後半にかけてポートフォリオのレジリエンスを一段と高めることが重要になると考えています。

- ・ **経済のレジリエンス**：米国および世界の成長率は、堅調な個人消費、力強い企業投資、着実な生産性の向上と堅調な企業利益に支えられ、トレンド成長率に近い水準を維持しています。
- ・ **株式市場における投資機会の拡大**：投資機会の裾野は、世界の株式市場全体で引き続き拡大しており、多くの地域・セクターにおける企業収益性の改善に支えられています。当社は、株式では、情報技術セクター、米国小型株、金融セクターに加え、新興国株式を選好しています。
- ・ **インカム収益機会**：金融引き締め政策の継続により、年内は利回りが高止まりし、イールドカーブはフラットな状態にとどまるとみられ、インカム獲得の潜在的な機会が生まれています。当社は、米国ハイイールド債、ラテンアメリカを中心とする一部の新興国債券、そして米国納税者向けの地方債を選好しています。
- ・ **魅力的な長期テーマ**：AI（人工知能）は、エネルギーやインフラへの需要を喚起し、経済全体の構造変化を促しています。防衛、国家安全保障、エネルギー・インフラへの投資拡大は長期的なリターン機会を創出しており、高齢化の進展に伴い、労働力不足を補うテクノロジー、介護付きシニア住宅、ヘルスケア・イノベーションへの投資需要が高まると考えられます。
- ・ **オルタナティブ投資によるリターンと分散**：プライベート市場では、セカンダリー取引、プライベート・クレジット、不動産、インフラが、低ボラティリティによる分散効果の向上とともに、リターンを高める可能性のある魅力的な機会を提供しています。
- ・ **投資見通しに対するリスク**：地政学的紛争、インフレの高止まり、市場予想を上回る金融引き締めの可能性は、2026年下半期に投資家が注視すべき主要リスクです。

リスクについて

すべての投資には、元本割れの可能性を含むリスクが伴います。

株式は価格変動の影響を受け、投資元本を割り込むことがあります。

債券には金利リスク、クレジットリスク、インフレリスク、再投資リスクがあり、投資元本を割り込むことがあります。金利が上昇すると、債券の価値は下落します。債券自体の信用格付け、または債券の発行体、保険会社、保証人の信用格付けもしくは財務健全性の変化は、債券の価値に影響を与える可能性があります。低格付けのハイイールド債は、価格の変動が大きく、流動性が低く、デフォルトのリスクが高くなります。

異なる戦略、資産クラス、投資対象間で資産を配分しても、有益であるとは限らず、期待した結果が得られない可能性があります。ある戦略が特定の国や地域の企業に投資する限りにおいて、地理的に広く分散された戦略に比べて、ボラティリティが高くなる可能性があります。

コモディティ関連の投資は、コモディティ指数の変動、投機的取引、金利動向、天候、税制および規制変更などのさらなるリスクが伴います。

国際投資は、為替変動や社会的、経済的、政治的な不確実性を含む様々なリスクの対象となり、ボラティリティを高める可能性があります。これらのリスクは新興国市場では一層大きくなります。中国への投資は、政府による経済への関与が依然として大きいいため、他の多くの国と比べてより大きな規制リスクにさらされると予想されます。

上場企業への投資とは対照的に、**非上場企業への投資**は、企業に関する情報開示が限られており、流動性も低いいため、上場企業への投資に比べてリスクが高くなります。

アクティブ運用は、利益の獲得や市場下落からの保護を保証するものではありません。分散投資は利益を保証するものでも、損失を防ぐものでもありません。

重要事項

本資料は一般的な情報提供のみを目的として作成されたものであり、個別の投資助言または投資戦略の採用に関する推奨や勧誘を行うものではありません。また法律上、税務上の助言を行うものではありません。本資料の利用により生じたいかなる損失についても、フランクリン・テンプルトンは一切の責任を負いません。

本資料のなかで示された見解は、作成時点における運用マネジャーの見解であり、事前通知なしに変更される可能性があります。本資料で示された意見および分析は、市場環境などの一定の前提条件に基づいており、今後変更される可能性があります。また、他の運用マネジャーによる見解や当社全体としての見解と異なる場合があります。

本資料は、特定の国、地域または市場に関するすべての重要な事実を網羅的に分析することを目的としたものではありません。また、経済または金融市場に関する予測、見通し、予想が実現する保証はありません。特定の有価証券に関する記載は、あくまで説明目的のものであり、当該有価証券の購入、売却または保有を推奨または勧誘するものではありません。

本資料に含まれる調査・分析はフランクリン・テンプルトンが自らの目的のために作成したものであり、参考情報として提供されています。記載された情報は信頼できると考えられる情報源に基づいていますが、その正確性および完全性を保証するものではなく、事前通知なしに変更される場合があります。

過去の運用実績は将来の運用成果、利益または収益を保証するものではありません。すべての投資には、元本割れの可能性を含むリスクが伴います。

フランクリン・テンプルトンは、環境・社会・ガバナンス（ESG）に関する運用能力を有していますが、すべての投資戦略やそれに関連する商品が、投資プロセスにおいて「ESG」を考慮しているわけではありません。

【当資料に関するご注意】

- 当資料は、フランクリン・テンプルトン（フランクリン・リソーシズ・インクとその傘下の関連会社を含みます。以下「FT」）が作成した説明資料を、フランクリン・テンプルトン・ジャパン株式会社が翻訳したものです。
- 当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、特定の金融商品等の推奨や勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、FTが信頼性が高いと判断した各種データ等に基づいて作成したものです。その完全性、正確性を保証するものではありません。
- 当資料のデータ、運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、当資料に記載される見解は作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権、その他一切の権利は、その発行者に帰属します。
- 当資料はFTの許可なく複製・転用することはできません。

フランクリン・テンプルトン・ジャパン

商号：フランクリン・テンプルトン・ジャパン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号

加入協会：一般社団法人資産運用業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会



FRANKLIN
TEMPLETON